

私達の周りには、魚がいっぱい



ハス



イサザ

スジマドジョウ



コイ野生型



ホンモロコ



スナヤツメ



シロヒレタビラ



ゲンゴロウブナ



アブラポテ

赤枠は絶滅危惧類

オレンジ枠が準絶滅危惧類



ギンブナ



ピワマス



ウツゼミカジカ



アブラハヤ



ウグイ

便り



第2号 平成22年3月発行

編集：海津西浜知内地域文化的景観まちづくり協議会

海津西浜知内周辺は様々な水系に多様な種類の魚が、生きています。その中には、多くの琵琶湖の固有種や絶滅危惧種の魚がいます。

文化的景観指定の際、調査された資料によると、五十七種類もの魚が採集されました。琵琶湖と知内川を行き来する魚（アユ・ピワマス・ウグイ・ハスなど）琵琶湖と水田を行き来する魚（コイ・ニゴロブナ・ナマズ）スジマドジョウなど）中の川や水田に住んでいる魚（アブラポテ・メダカ・ドジョウなど）琵琶湖と内沼を行き来する魚（ホンモロコ・ゲンゴロウブナなど）琵琶湖に住んでいる魚（アブラヒガイ・ピワコオオナ

な生物の多様性が保たれていることが良くわかる例は、今日では数少なくなっています。そんな貴重な場所がここ海津西浜知内です。

小学校のカヌー体験やお魚調査、農業者の魚のゆりかご水田の事業、また「おかずとり」といった地元の魚を捕ってきて料理すること、などを通してもう一度、身の周りにある水との関わりを考えてみませんか。この貴重な多様性のある魚の棲家（その豊かな水環境）は、次世代に引き継ぐ大切な地域の財産です。

写真の魚は、今も、私達のまわりにいる代表的な種類や貴重な種類のものです。

マズ・イサザなど）湧き水に住んでいる魚（スナヤツメ・ウツゼミカジカなど）です。

その生物の多様性と豊富さは、伝統的な生活文化である舟運や農作業に利用されてきた水系のネットワークにより維持されてきました。人間の活動と自然が絡み合っているように

三十六景 其の2

知内川のヤナ

煤の付いた鍋、目にしむ煙、茶碗酒ヤナ番は、待つことが仕事である。幼心にそんな番屋の風景を覚えている番屋というくらいだから、

昔は、密漁の番もしたのだろう。



竹の簀がプラスチックに変わってもカッター池の土留めのセキ板が木からコンクリートに変わってもその理にかなった姿と、

その漁を支える組織は変わらない。昔のカタチと、ヒトとの関わりは今も連綿と続いている。

セピア色の風景を見つけに・・・

と銘打って、3月13日(土)午後、

海津町歩きを行いました

今回の事業は、3月11日 毎日新聞の滋賀版にも掲載されました。当日は、地元の小学生を含めて30名の参加で開催することができました。まず、滋賀県立大学の濱崎先生のご案内で散策し、その後、写真を撮ったりするフリーの時間をとり、最後に古写真と現在の様子の答え合せをして終了しました。

セピア色の風景を見つけに...

高島 海津町の面影をたづねる高島市マキノ町海津の魅力を再発見しようと、地元民でつくる海津町民会(小多町会)は13日、散策会「セピア色の風景を見つけに」を開催し、海津町を巡る。往時の街並みの写真を配り、現在の場所を探し歩く。

一帯は猪苗代に江戸時代石積み藩邸が残り、高島市海津町西、市内の水辺は伝統的湧水利用型「橋」・「堰」・「樋」の生活水利用型「イケ」・「湧り」から湖への連絡「ツル」などがある。当日は県立大入館文化学部長、高島一志教授

13日・散策会

海津の魅力再発見



高島市マキノ町海津の石積み藩邸。手前の湧水に突き出した板が橋脚



東小学校に集まって、いざ出発



中の川の旧船たまり



地藏盆が行われる大日堂



街道沿いの旧家



共同の水場、イケ



石積みや橋板



三羊館古写真と現在の様子の対比です。すっかり変わった、面影が残っている、ほとんど同じ所など様々です